

平成29年度FD活動の中間報告をお届けします。

今回は、平成29年度公開授業の様子と、春セメスターに実施した「学生による授業アンケート」についてのご報告を中心にまとめました。

本学の教育力向上のため、今後とも一層のご理解とご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。



よろしくお願いします
しますニャ

自己点検・評価実施委員会 委員長
磯 水絵



(C) 2016 Eri Takeda (無断転載禁止)

■ 平成29年度春セメスターに実施したFD活動

公開授業

学生による授業アンケート

■ その他FD活動 ※詳細は、平成29年度活動報告として次号に掲載致します。

5月20日(土) FD講演会

「学生指導・学生支援再考 学生と共に歩むことが今より少し面白くなるとしたら…」

9月11日(月) 教育と経営に関する研修会

※秋セメスターは、学生による授業アンケートの実施、FD講演会の開催などを計画しています。



■ 平成29年度 公開授業

昨年度は春セメスター、秋セメスターに各2週間ずつ期間を定めて公開授業を実施しましたが、今年度は、昨年度の反省を踏まえて、春セメスターのみの実施としました。

《公開期間》 平成29年 6月 5日(月)～ 6月17日(土)

《公開状況》 公開科目数 6科目(9コマ)

担当教員が所定の期日までに届け
出た科目を公開授業としました。

授業の指導方法、授業運営等に関するコメントについては、次ページでご紹介します。

参観された先生からのコメントの一部をご紹介します。
公開・参観された先生方、ご協力ありがとうございました！



配布資料への工夫について

テキストの内容をレジュメにまとめ、空欄を埋める作業を学生にしてもらうことで、学生に重要なポイントに気づいてもらい、能動的な学習へ促すきっかけとなっている点が非常によい参考になりました。

ノートの書き方をプリントでリードしている。

レジュメに注釈書もリストアップされており、さらに深く知りたい学生にとってありがたい情報です。

重要と思われる箇所は繰り返して伝えているため、印象に残ります。

学生に復習をさせて導入にかえているのはよい。

授業の中で個々の学生にもう少し声をかける機会を意識的に設ける必要があるかも知れないと考えさせられた。

授業上の工夫等について

学生たちに対し、「好^{ハオ}」と声をかけて適宜励ますこともなされており、モチベーションを高めるための工夫が見て取れた。
ほめることの大切さを実感した。

男女の恋と水とが関わる作品の例を挙げさせるなど学生の持っているものを引き出そうとする試みも共感が持てた。

たとえ話が馴染み深いもので、学生の興味を惹きつけるように工夫されていた。

YouTubeをスクリーンに映し出して説明に利用するのも、これまで行ったことがなかったので、大いに参考になった。映像を用いることで、理解と記憶を助ける効果があると思う。

最後のリアクション・ペーパーは、授業内容がきちんと理解できていないと書けないようになっている。(先生の工夫がなされていると感じた。)

話すスピードがゆっくりで聞き取りやすく、適切であると感じた。

(ご自身の担当科目以外での)本学学生の様子がわかり、参考になった。

宿題を出すことで、必ず自宅で学習させ、翌週宿題をしたかチェックする。

その他

PCで板書にかえる→読みやすい。

自発的に意見を述べた学生に、名前記入用の紙を渡しチェックしている。

(指導しているゼミナールの学生が聴講しており)こうした場で出会い、何気ない話の中で履修についてアドバイス等できた。

セッションニュース・宿題で本時以外の学習をうながしている。

授業時間外学習の工夫について

※コメントは、「公開授業を参観されて参考になった授業上の工夫や、今後のご自身の授業改善に向けてのご感想などを記入してください。」としてご提出いただいたものです。



Pickup!!

■ 学生による授業アンケートの実施

平成29年7月に、春semester半期開講科目を対象とする『学生による授業アンケート』を実施しました。アンケート結果の詳細は、秋semesterの実施結果と併せて、平成30年度発行予定の『年報』に掲載致します。

こちらでは、昨年度からアンケート結果の組織的活用の一環としてお願いしている、担当教員のコメントから、一部を集約してご紹介します。

結果への感想



前年度のアンケート結果から、自分で今期の課題にしていた点について、今回は改善希望が出されず、一安心した。

「授業の内容を理解し、新しい気づきや発見があった、ものの見方や考え方が広がった」という回答が8割程度あって、うれしい。

教授する側の意図を反映したアンケート結果だったので、満足。

学生に関心をもたせた上で厳しく鍛えることを眼目に授業を行っているが、厳しく鍛えられても、そこにやり甲斐と成長が感じられれば学生は努力を厭わないということがわかった。

ノート・板書

とくに板書は、あえて固有名詞などに限っているという面もある。そのあたりは、初回授業などでの説明が必要かもしれない。

しっかり指導しているつもりだが、「この授業でどのような内容をノートにとりましたか」の設問で、「全くとったことがない」の回答が約1割もいて、残念。

パワーポイントのスクリーンの切り替えのタイミングが速い、また、学生によっては写す量が多すぎて大変、と考えているようで、パワーポイントの印刷・配布を希望する学生が散見される。写しきれないときは授業後に写しに来て欲しいと伝えていても、ためらわれたのかもかもしれない。

質の保証…?



授業時間外学習

予習・復習等の学習時間が1時間未満の学生が約9割と圧倒的に多く、何らかの対応が必要だと感じた。

課題や期末試験以外の小テスト、発表の機会を設けるなどして、学生に自発的な学習を促す。

予習・復習したくなる、内発的動機付けを促したい。

学生の取り組みとして、予習・復習をしている学生が、あまりいない。前からの傾向であるが、せめて復習はして欲しいと指導はしているが、なかなか実らないようである。

できるだけ自発的に学習するよう試みているつもりであるが、試験や課題として課さない、学生が自発的に勉強するようにはならないという印象である。

★本学では、大学設置基準に基づき、学則で次のとおり定めています。

(単位の計算方法)

第26条 各授業科目の単位は、45時間の学修を必要とする授業内容をもって1単位とすることを標準とし、当該授業による教育方法、教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算する。

ここに注目!

※本学では、授業時間に授業時間外の学習時間を足して、45時間の学修で1単位とすることを標準としているため、予習・復習等の時間が短すぎることは、「所定の学修時間を満たさない」＝「当該授業における学修内容が薄い」ということになり、文部科学省が推進する「質の保証」にそぐいません。

質保証の観点からも、授業時間外学習時間の確保が求められています。

そうしたこともあり、先生方は、ある程度の授業時間外学習を要するよう授業内容を準備されていますが、想定よりも回答結果が下回っているとして、試行錯誤されているようです。

※授業時間外学習には、予習・復習のほか、授業で課された課題・宿題、授業内容に関連して興味を持った記事・文献・図書等の読書時間、なども含みます。

試験

持ち込みを可にしてほしいという意見があった。持ち込み可にすると、配布プリントをそのまま写した解答となりがちで、試験の意義を見出しづらい。

学生に正確な答えを知りたがる傾向が強い。論述試験は授業内容を正確に把握しているかどうか、自分の意見をしっかりと論述できているかどうかを問うもので、全体としてすぐれているかどうか判断基準となるため、正解を部分的に示すことは困難である。

持ち込みなしの論述が大変だから、とレポートを希望する声があった。論の全体の構成を頭にいれて書く練習にもなるので、頑張ってください。

学生のみなさんへ

結果を参考にしたいので、もっと回答してほしい。

配布プリントの構成や配布方法についての指摘があり、普段学生がどのような感想をもっているのか分かって良かった。こうした貴重な意見を参考に改善していきたい。

配布プリントは、自習時や授業時に生じるであろう様々な疑問に事前に対応できるよう、詳細な解説等も出来るだけ入れるようにしているので、分量を抑えるように心懸けてはいるが、それでも1~2枚に収まりきらないのはやむを得ない。

要望がある場合は、個人名が特定されない範囲で、理由も含めて詳しく書いて欲しい。例えば、「難しい」という一言だけでは、どこをどのように改善したら良いかの判断が困難なので、改善に役立てられるよう、具体的に書いて欲しい。

「授業を通して国際的な決まりを理解できるようになり、身近に感じられるようになった」という記述があった。授業内容が机上の空論などではなく、実際に社会で起きている諸問題と関連しており、そのつながりを意識できることが、当該科目の、さらに言えば社会科学の醍醐味であるので、それが受講者の1人にでも伝わっているのであれば嬉しい。

●回答及び提出等にご協力いただき、ありがとうございました。●

授業アンケートの集計結果（概要）は『二松学舎大学 年報』で、科目毎の集計結果（詳細）は『学生による授業アンケート結果』（冊子）として、図書館で閲覧することができます。

～編集後記～

今号の編集にあたり、先生方からいただいたコメントシートを拝見して、授業に対する先生方の様々な工夫や、学生理解のための努力などを窺い知ることが出来ました。本文中でも触れましたとおり、大学の質の保証という言葉を増やすことが増え、国からも求められるようになって参りましたが、これは同時に、学生の学修実態の把握や厳格な成績評価などの実施を要求されていることでもあります。

我々、大学教員・職員のみならず、学生のみなさん、父母のみなさんにも広くご理解いただけますようよろしくお願い致します。

毎度のお願いとなりますが、より効果的なFDの推進には、先生方の能動的な参加が必須となります。FDに関するご意見・ご要望は、自己点検・評価実施委員長、大学改革推進課までお寄せください。



【執筆責任】 自己点検・評価実施委員会
【お問い合わせ先】 二松学舎大学 大学改革推進課
TEL: (03)3261-1285 FAX: (03)3261-7413
E-mail: gakumu@nishogakusha-u.ac.jp